

令和4年度 奈良県立奈良北高等学校 学校評価総括表(年度末報告)	
年度	令和4年度(中期計画1年目)
本校の使命(スクール・ミッション)	科学技術の振興や社会の発展に貢献する人材の育成、グローバル人材の育成
年度重点目標	スクール・ミッションを達成する基盤としての体制を整える。

【高等学校用】

## 1 スクール・ポリシーの内容

	<p>入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>本校は、生徒一人一人の個性や創造性を伸ばす個に応じた教育を大切にしつつ、様々な課題に直面する変化の大きい社会の中で、豊かな社会の形成者として、心豊かな資質を伸ばし、科学技術の振興や社会の発展、国際社会に貢献できる人材の育成を目指しています。その実現のため柔軟な判断力と枠にとらわれない発想力で学びを深め、高い志をもち本校でその実現に向けて努力する生徒を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の使命や教育方針を理解する生徒</li> <li>2 自らを大切にするとともに他者への思いやりの心を持ち、国際社会や地域社会の発展に貢献しようとする生徒</li> <li>3 基礎的な学力がついており、目標を掲げて学習に取り組む生徒</li> <li>4 自ら考え行動できる生徒</li> <li>5 探究的な学習に意欲的に取り組み、自ら課題を発見しようとする好奇心旺盛な生徒</li> <li>6 数学や理科・科学技術に関心と興味をもち、将来科学技術の振興に貢献したい生徒(数理情報科)</li> </ol>
	<p>教育方針(スクール・ポリシー)</p>	<p>本校では、豊かな人間性・自ら学ぶ意欲と態度・自律した生活態度・進路実現のための高い志の育成と、変化する社会に対応する能力・意欲・創造性を養うことを教育方針とし、その実現のために以下の教育を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会の変化に対応できる人材を育成するため、既存の科目にとらわれない学校設定科目を開設し、課題を発見し、その解決に向け粘り強く取り組む態度を育成します。</li> <li>2 探究的な学びを重視し、「論理的な思考力」「総合的な判断力・表現力」「新しい価値観を創造する力」を育みます。</li> <li>3 STEAM教育の視点に立った教科横断的な学習を意識し、未来指向の教育活動を展開します。</li> <li>4 規律ある学校生活を通して、自律する力や規範意識を高め、未来の社会を担うための高い倫理観を育みます。</li> <li>5 コミュニケーション力やリーダーシップ、健やかな心と体を育成し、他者と協働する力を醸成します。</li> <li>6 国際教育に積極的に取り組み、世界を視野に入れたグローバル人材育成を意識した教育プログラムを提供します。</li> <li>7 学校行事や課外活動、高大連携講座、ボランティア活動などを通して、視野を広げ、主体性と協働する意識を高め、社会に貢献する精神を涵養します。</li> </ol>
	<p>育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自然や人間を大切にす豊かな人間性を培い、自他の価値を認め合い、他者と協働しながら自分を成長させることができる。</li> <li>2 国際化・情報化の進む社会の中で、広い視野をもち、既存の価値観にとらわれず、自らの考えを論理的に表現し、行動することができる。</li> <li>3 個性を生かし、学びをよりよい社会の創造につなげ、社会の一員として貢献することができる。</li> <li>4 健やかな心と自主自律の精神をはぐくみ、何事にも粘り強く取り組むことができる。</li> </ol>

## 2 奈良県教育振興基本計画(「奈良の学び推進プラン」)が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和4年度末の目標値等(C)	令和4年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策(案)
1. こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	基礎体力についての意識の向上	運動習慣の定着及び、体力は必要だと思う生徒の割合90%以上の維持	体力は必要だと思う生徒の割合90%以上	体力テストのアンケートで96%が必要と回答している。	令和4年度は体育で生徒自身が運動の選択をする場面が複数回あり、状況に応じた種目選択やルールの設定等を考えさせることができた。	生徒の意識を調査し、確かめることは大切である。	生徒自身の体力に応じた運動を主体的に選択する取組を展開し、生涯を通じて運動を継続できる力を身に付けさせる。体力テストの結果に注目し、経年変化を分析する。
	危機管理に対する意識の向上	危機管理について、自らを守るための意識や理解ができていますと回答する生徒の割合の増加(R3年度67%)	危機管理について、自らを守るための意識や理解ができていますと回答する生徒の割合70%以上	生徒アンケートで84%が自らを守るための意識や理解ができていますと回答している。	交通安全集会や、第1学年を対象に薬物乱用防止教室を実施した。また、自転車の乗車マナーなどについて随時展開し、成果をあげた。	SNS関係のトラブルに対する手立てとして、教員が生徒の利用しているアプリについて知識をもった上で対応すべきである。	講演会やHRを通じて、内容やテーマを検討しながら危険回避の意識を高めるとともに、本校は自転車通学者が多いので、自転車の事故防止をさらに進めていく。SNS関係の職員研修を実施する。
	望ましい生活習慣の確立	学校の指導は基本的な生活習慣を身につけるように行われていると回答する生徒の割合80%以上の維持	学校の指導は基本的な生活習慣を身につけるように行われていると回答する生徒の割合80%以上	生徒アンケートで88%が基本的な生活習慣を身につけるように指導が行われていると回答している。	登校指導の人数を増やし、積極的な声かけで生徒の自覚を促すとともに、講演会、学年集会等により、基本的な生活習慣の大切さについて展開することができた。	生活習慣の乱れを放置すると、さらに乱れをうむ悪循環に陥るので、きめ細やかな声かけが必要である。将来につながる身近な目標を生徒自身が考える機会をもてる取組を実施すべきである。	教員が生徒の公共心や規範意識の向上を図るという意識を高め、積極的に生徒への「声かけ」を継続して行う。生徒自身が生活習慣の改善ができるように指導を行う。
2. 学ぶ力、考える力、探求する力をはぐくむ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	わからないことを自分で調べたり、諦めずに考えたりしようとしていると回答する生徒の割合50%以上を目指す	わからないことを自分で調べたり、諦めずに考えたりしようとしていると回答する生徒の割合40%以上	生徒アンケートで「わからないことを自分で調べたり、諦めずに考えようとしている」という問に「いつもしていた」に29%、「だいたいしていた」に53%が回答している。	目標は「いつもしていた」の割合の増加なので、達成できなかった。「だいたいしていた」を含めると80%を超えるので、今後「いつもしていた」と自信をもち回答できるよう取組を進める。	現状は目標値に達していないことを示し、課題があることを明確にすることが大切である。	令和5年度は、第1・2学年で一人一台端末を用いた授業が可能となる。本年度の取組を踏まえて、ICTを活用した効果的な授業展開等を研究し、生徒に「考える」学習機会を提供していく。そのために教務部が核となり、ICTの活用に関する職員の研修を計画していく。
	知識を活用して解決する力の向上	ジェネリックスキルテストにおけるリテラシーLevel4以上の割合の入学時から3年時の増加率13%以上を目指す	ジェネリックスキルテストにおけるリテラシーLevel4以上の割合の入学時から3年時の増加率について教職員の共通理解を図る	リテラシーLevel4以上の割合について全国の状況を見ると、第1学年から第3学年で13%増加している。本校は11%と若干下回っており、目標値としてまず13%の増加を設定した。	第1学年から新学習指導要領のもとでの一人一台端末による学習がスタートし、ICTを活用した「考える」授業を教員が試行錯誤しながら進めている。	目標値を全国の平均的な状況に置いているが、13%以上に設定する意欲的な姿勢が必要ではないか。	リテラシーLevel4以上の割合を1%あげることの困難さの見極めや目標値の再検討を含め、現第1学年の経年変化を見て検証する。ICTを活用した授業展開の研究は発展途上であり、生徒に「考える」学習機会を提供していくために、職員研修を計画していく。
	オンライン教育の推進	教育活動全般に対してICTの活用を推進	全学級でのGoogle Classroomの活用	全てのクラスにおいてアンケートや連絡事項の掲示等、様々な形でClassroomが活用されている。授業においてもForm等を活用している教員も多い。	全体の研修会をあまり開催できなかった点は反省する必要がある。教員の自主的な研修によるClassroomの活用という点ではよいスタートが切れたと考える。	第1回協議会においてCS設置の目的について確認の上、当初の予定通り2回開催することができた。	計画期間における具体的目標がイメージしにくい。具体的な目標も設定するとよい。
3. 働く意欲と働く力をはぐくむ	インターンシップの充実	アカデミック・インターンシップを含めたインターンシップの実施率25%以上を目指す	アカデミック・インターンシップを含めたインターンシップの実施率18%以上	第3学年は新型コロナウイルス感染症の影響でインターンシップが実施できない期間もあったが、入学後1回以上インターンシップに参加した生徒の割合は22.9%であった。	教育研究所の斡旋による長期休業中のインターンシップ参加を呼びかけた。数理解報科では、企業の研究施設訪問等を実施した。また、医療系大学の体験実習を実施した。今後も機会を拡げたい。	困難ではあるが、高等学校卒業段階で仕事に対する明確な希望や将来の目標をもつ生徒の割合が増えればよい。	生徒の大多数が進学希望なので、第2学年当初に保護者も参加できる希望者向けの進路講演会を新しく実施する等情報提供を適切に行い、大学や専門学校でのインターンシップへの参加を促す。また、キャリア意識の醸成を目指した特別講義を実施する。
	キャリア教育の推進	進路について具体的に学んだり、深く考えたりする機会があると回答する生徒の割合80%以上を目指す	進路について具体的に学んだり、深く考えたりする機会があると回答する生徒の割合70%以上	生徒アンケートで89%が進路について具体的に学んだり、深く考えたりする機会があると回答している。	7月に全校生徒対象の進学相談会を実施した。9月には1年、10月には2年生、8月には3年生対象の進路講演会を実施した。	令和4年度に作成したconstellation(キャリアパスポート)を活用する。個別の進路目標に対する情報収集の方法、キャリアデザインの設計方法等についての情報提供を充実させる。	令和4年度に作成したconstellation(キャリアパスポート)を活用する。個別の進路目標に対する情報収集の方法、キャリアデザインの設計方法等についての情報提供を充実させる。
	対人関係能力の向上	ジェネリックスキルテストにおけるコンピテンシーLevel3以上の入学時から3年時の増加を目指す	ジェネリックスキルテストにおけるコンピテンシーLevel3以上の割合の変化について教職員の共通理解を図る	コンピテンシーLevel3以上の割合について全国の状況を見ると、第1学年から第3学年で1.3%増加している。本校は若干減少しており、目標値としてまず1.3%の増加を設定した。	第1学年の理数探究基礎や第2学年普通科の総合的な探究の時間及び数理解報科の課題研究、さらには部活動等を含めた特別活動を通して、コンピテンシーの向上に努めてきた。	リテラシー(知識を活用して問題を解決する力)やコンピテンシー(人と自分にベストな関係をもたらそうとする力)を日本語化して再定義をし、イメージを共有した上で取り組まなければならない。	それぞれの学習や活動の意義及び目的を教員が理解した上で生徒に明確に示し、生徒自身が目的意識をもった活動に協働して取り組ませる。
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	コミュニティ・スクールの運営	学校運営協議会の年度2回以上の開催	学校運営協議会の設置及び早期の開催	7月1日付けて学校運営協議会が設置された。8月1日に第1回、2月9日に第2回の会議を開催した。	第1回の協議会においてCS設置の目的について確認の上、当初の予定通り2回開催することができた。	地域と連携した事業を活性化させ、地元との接点をよりもってもらいたい。	コミュニティ・スクールの立ち上げはできたので、協議内容を充実させるとともに、運営協議会委員の知見を学校運営により生かしていくため、設置している3つの部会の活性化を図る。
	ボランティア活動への参加促進	地域ボランティアへの参加者数のべ200名以上の維持	地域ボランティアへの参加者数のべ200名以上	富雄川清掃ボランティア活動等のボランティア活動に、1月末現在215名の生徒が参加した。	様々な取組において地域連携・異校種間連携に繋がる活動を行うことができた。	生徒に学校外でボランティア活動を行ったかを調べることも大切だ。ボランティアはまず参加することが大切なので、動機付けに生徒の特典があってもよい。	令和4年度の活動計画を見直し、生徒がより主体的に参加できる機会を創造する。
	自らの在り方について学ぶ機会の充実	生き方や在り方について学んだり、考える機会があると回答する生徒の割合85%以上を目指す	生き方や在り方について学んだり、考える機会があると回答する生徒の割合80%以上	生徒アンケートで89%が生き方や在り方について学んだり、考える機会があると回答している。	新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、令和4年度は文化祭や体育大会等の行事を多く開催したこともあり、多くの生徒が積極的に学校行事やホームルーム活動に取り組むことができた。	生き方や在り方と、学校行事との関係がわかりにくい。コンピテンシーと関わってくるが、どのように周囲と協働して成果をだしているのか、自分は何をしたいのかを生徒に考えさせる必要がある。	それぞれの学習や活動の意義及び目的を教員が理解した上で生徒に明確に示し、生徒自身が目的意識をもった活動により主体的に取り組ませる。
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	一人ひとりを大切にす人権教育の推進	人権について学んだり、考えたりする機会が適切に設けられていると回答する生徒の割合90%以上の維持	人権について学んだり、考えたりする機会が適切に設けられていると回答する生徒の割合90%以上	生徒アンケートで94%が人権について学んだり、考えたりする機会が適切に設けられていると回答している。	人権教育ホームルームや人権教育講演会の実施、ニュースレターや人権作文集の発行など、計画通りに進められた。	定量的な数値目標だけではなく、定性的な行動目標を立てることも大切だ。	人権教育推進委員会を活用し、生徒の人権意識をさらに高めるため、ホームルーム教材の精選やニュースレターの内容の充実を図る。
	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進	いじめや暴力をなくす指導が適切に行われていると回答する生徒の割合90%以上を目指す	いじめや暴力をなくす指導が適切に行われていると回答する生徒の割合85%以上	生徒アンケートで89%がいじめや暴力をなくす指導が適切に行われていると回答している。	学期ごとに「いじめに関するアンケート」を実施した。気になるアンケート内容については個人面談等を担任が行い、内容を詳しく聞きとることができた。	目標としていじめの絶無をめざすべきだ。そのための定性的目標も設定するとよい。	「いじめに関するアンケート」を学期毎に実施し、相談しやすい環境づくり、いじめを許さない環境づくりの推進に生かす。
	教育相談の充実	「悩みを相談しやすい場所がある」「先生に相談しやすい雰囲気がある」と回答する生徒の割合80%以上を目指す	「悩みを相談しやすい場所がある」「先生に相談しやすい雰囲気がある」と回答する生徒の割合75%以上	生徒アンケートで「悩みを相談しやすい場所がある」「先生に相談しやすい雰囲気がある」と回答した生徒の割合はそれぞれ75.3%、76.9%である。	アンケート結果を受けた個人面談等を通じ、教員が状況把握を行うことで、環境を整えることができた。	定量的な数値目標だけではなく、定性的な行動目標を立てることも大切だ。	生徒が相談しやすい環境を人的・物的両面より整えるとともに、内容に応じてスクール・カウンセラーや関係諸機関につなげられるよう、システムを見直す。

## 3 評価結果の分析、今後の改善方策等

・おおむね学校教育目標の実現に向けた、令和4年度末の目標値等については達成できている。探究的な学びの充実やSTEAM教育の視点に立った学習の実現に向けた理数探究基礎及び科学特論等の実施、希望者向けの特別講座の実施など新しい取組を始めることができた。今後は取組を修正を加えながら充実する。各アンケートに対する肯定的な回答が高い割合のものについては、生徒の状況や社会の変化に敏感に反応しながら、今後の維持できるように方策や取組の改善を図っていく。

・令和4年度から実施したコミュニティ・スクール(学校運営協議会)の活性化や、教員の指導力等の向上に関わる研修を各分掌が実施することで、生徒の学びに向かう力と生きる力の醸成に向けさらに取組を進めていくことが課題である。

・本校に入学してよかったと回答する生徒の割合88% 本校に入学させてよかったと回答する保護者の割合90%